

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	モモの家		
○保護者評価実施期間	R6年12月27日		R7年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	R7年2月12日		R7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月17日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員数が多くないため、支援や業務に関する様々なことを共有しやすい。	支援中の出来事や保護者とのやりとりなど速やかに共有したほうがいいと思われることを、口頭で全職員に周知するよう徹底している。日々の打ち合わせや支援会議なども全職員参加での話し合いを基本としている。	引き続き職員間の情報共有に努め、支援の質の向上に努める。
2	保護者同伴での通園のため、子どもの状態や支援についてなど、その場で保護者と共有しやすい。	保護者から質問や相談があった場合には、すぐに職員間で共有をし対応できる職員が返答するなど、迅速な対応に努めている。子どものわずかな変化や良い行動もその場で保護者にフィードバックして、保護者が子どもの成長を実感できるよう働きかけている。また、子どもへの支援についても、場面を捉えて有効な対応をともに考えることで、保護者のサポートに繋がるよう努めている。	良い支援を全職員で共有することで、支援の具体策を積み重ねて事業所の質の向上に努める。
3	同法人で相談支援事業所を運営していることや、館内に市の保健センターがあることなど、一部の関係機関と連携・連絡をとりやすい。	保健師からは見学児の希望の連絡を直接受け取ることができ、保護者の方の希望に沿って早めの支援開始に繋げるようにしている。	今後も顔が見える関係として連携を深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の経験年数に差があるが、研修が内部研修にとどまっている。	職員数が限られており、現状では業務時間内の外部研修に参加するより療育優先となっており、研修に参加できた職員は一部となった。療育や実際の支援で必要な内容の研修は、職員間での伝え合いが主である。	必要な研修については年間計画に入れ、経験年数が浅い職員にも積極的に研修の機会を確保する。
2	各種危機管理体制(例、避難訓練には職員のみ参加)の整備や利用者への周知が不十分である。	避難訓練に関しては、同法人内の一部署という位置付での療育時間外での参加となっており、内容の再検討が行えていない。その他についても内容の検討が不十分のまま形骸化している。	各種内容の再検討と職員間での共有徹底。
3	現在連携できている関係機関が限定されている。	連携が十分にとれている機関も複数あるものの、子どもの関係機関は多岐に渡っており、子どもだけでなく家族支援を考えた時にさらに多くの機関との連携や情報交換が必要となってくる。これまでは他機関からの要請に伴う連携が主となっていた。	保護者の方のニーズがあれば承を得た上で、積極的な情報共有を行っていくことを検討する。